

山形大学人文社会科学部の人材育成と地域貢献活動の改善に係るアドバイザーボード 「平成 29 年度まとめ」

本年度は、2 回にわたり人文社会科学部の人材育成と地域貢献活動について報告を受けた。

第 1 回目は、平成 29 年 8 月 31 日に開かれ、人文社会科学部の人材育成と地域貢献活動の全般についての近況と「大学の世界展開力強化事業」に採択されプログラムについて中間報告を受けた。

平成 29 年 4 月より、従来の人文学部から人文社会科学部に改組された際に重視されたのが、グローバル人材と実践力のある人材の養成に向けての教育改革である点は、進学を志す高校生にとっても、卒業生を受け入れる企業や自治体にとっても、意義ある改革と理解でき、今後の本格的な展開に期待するところ大である。

近年、東北地方への就職率は高まっているようだが、山形県内への就職率は低下しているようで、山形大学卒業生には一人でも多く山形県内に就職して地方創生の中核を担っていただきたいと希望する。

第 2 回目は、平成 30 年 3 月 13 日に開かれ、人文社会科学部より、国際交流と実践科目の展開を中心に報告を受けた。あわせて、平成 29 年度の就職状況についても報告を受けた。

自主的に実施した海外研修も一定条件をクリアすれば単位を認定するなど、教育方法に工夫をして、1 学年 300 名のうち約 50 名が海外留学の経験をもつなど、具体的に実績をあげていることは高く評価できる。

大学間協定校など派遣先を増やす一方で、経済的に厳しい環境にある学生を支援する方法を検討するなどして、今後ますます海外留学の経験者を増やし、グローバル人材の育成に力を注いでいただきたい。

また、課題解決型の実践力を身につけさせようとするカリキュラムが増えたことも大変高く評価できる。

地域でのフィールドワークの経験をきっかけとして地方自治体に就職を志したという卒業生の声も聞こえ、これからの予測の難しい時代に地域に根付いて活躍できる人材の育成に期待している。

今後も、山形大学の他学部とコラボレーションしたり、観光など本県の資源を生かした実践的な演習を組むなど、さらなる工夫に期待している。

その場合、実践的な演習を重ねることで成績が向上するなど、「視野が広がった」「いい経験になった」というような抽象的な表現にとどまらず、具体的に実践力が身についたといえるような指標を考案していただくような、教育方法の改善も期待したい。

平成 29 年度については、山形県内への就職もわずかながら上昇したようで、地域への貢献としても大変に高く評価している。

今後とも、人材育成と地域貢献活動について、一層の内容充実を図っていただくよう希望するものである。